

共通化・共有化の波 インターネットの新しい世界

2008年7月9日

株式会社ゼロスタートコミュニケーションズ
専務取締役 伊地知晋一

インターネットの世界が急速に変化

➤ インターネットメディアに共通化、共有化の波

✓ 4つのキーワード

- **Social Graph**
- **OpneID**
- **OpenSocial**
- **DataPortability**

➤ 業界再編の流れ

✓ **MicrosoftがYahoo買収を提案**

OpenID

■OpenIDとは？

一つのIDを複数のサイトで利用できる認証システムと、そのIDそのものを指すものです。

■特徴

IDはURL形式となっており、自分のHPやブログのURLを利用したIDを取得することで、誰かにOpenIDを知らせる際に同時に自分のブログやHPを知らせることができます。

■米Yahoo!は2008年1月17日 OpenIDへの参加を表明した。

- ・現在、約1億2000件を超えるURLがOpenIDを使用している。
- ・Yahooユーザー約2億4800万人が新たに加わる。
- ・これに続いてMicrosoftとGoogleも参加表明

OpenID

■日本では

ヤフー、mixi、ニフティ、ライブドアが参加表明

■何が起きるのか？

- ・ユーザー：会員登録の手間が軽減される。
- ・事業者：異なるサイト間でも同一ユーザーを特定できることで、サイト間での情報の関連付けが可能となる。

■課題

未だ事業者もユーザーもOpenIDを利用するメリットが明確でない。
今後OpenIDだからこそ可能なメリットを提供できるかが更なる拡大のポイントだと考えられます。

Social Graph

■ Social Graphとは？

2007年8月Brad Fitzpatrick氏が提唱した、特定のSNSで構築した自分と他のユーザーの関係を別のサイトにも持ち運びができるようにするための手法

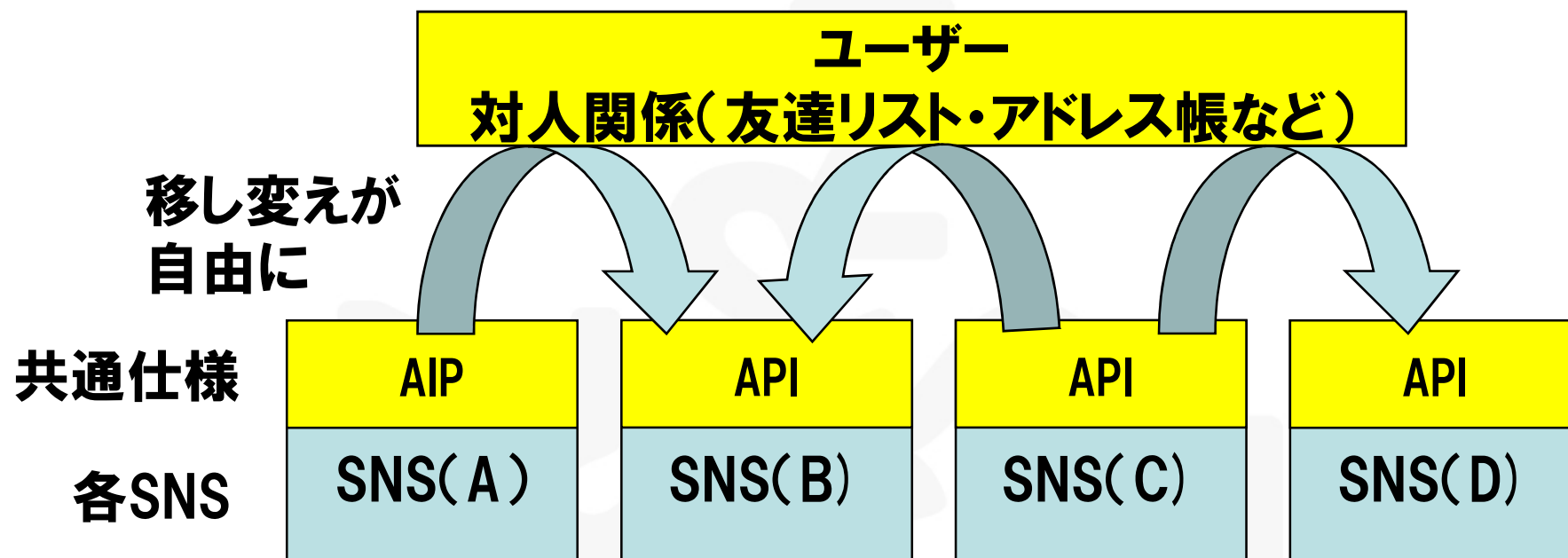
■ 基本的な考え方

個人に纏わる人間関係は、その個人の財産であり、どのサイトの持ち物ではない。そして個人がどのサイトへも持ち運びできるのが本来の姿であると提唱しています。

■ 実現方法

- ・各社がデータを移し変える為の共通仕様のAPIを用意します。
- ・個人の特定はOpneIDをベースにすることを提唱しています。

Social Graphのイメージ



■5月9日 Facebookが「Facebook Connect」を発表

DataPortability

■DataPortabilityとは？

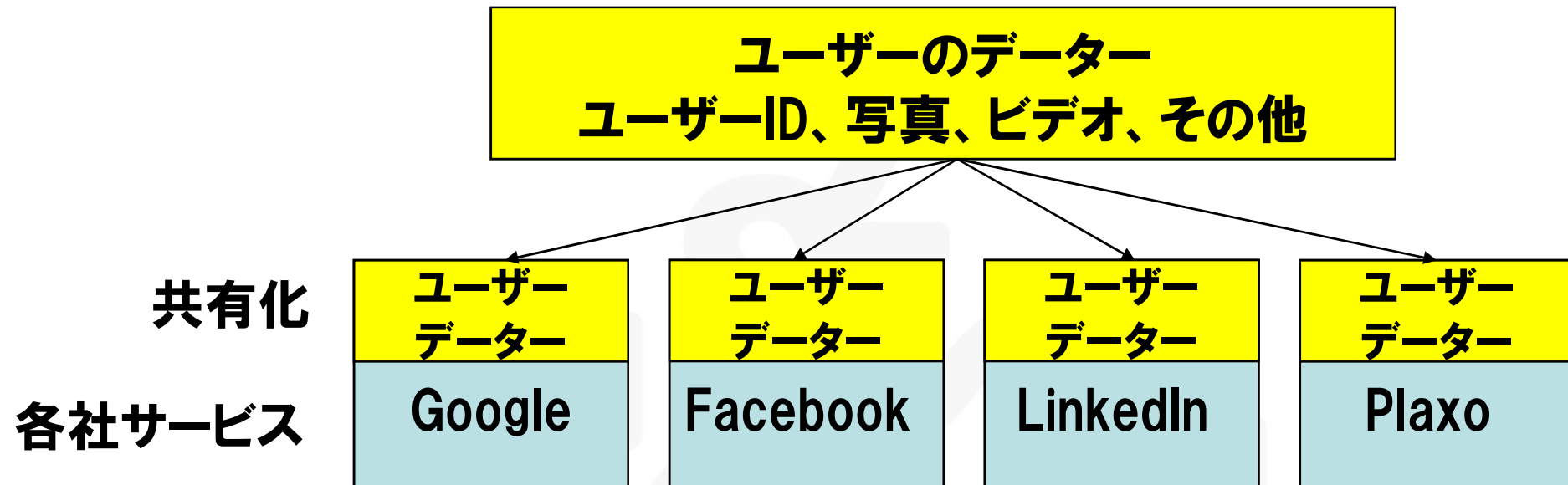
2008年1月「DataPortability団体」より提唱された異なるサイト間におけるデータの相互乗りいれを目指すプロジェクト。

特定のサイトで、個人が作成した情報
(ユーザーID、写真、ビデオやその他の個人データ)
が「DataPortability団体」に所属しているサイト同士であれば、データを
移し変えることなく双方で利用することが出来る。

■Googleが参加表明

既にDataPortability団体には、Google、Facebook、LinkedIn、Plaxo、が
参加が表明しており、大きなグループを形成し始めている。

DataPortabilityイメージ



■なにがおきるのか？

- ・ユーザーの囲い込みが効かなくなる。
- ・サービスの競争となることで、新規事業者にもチャンスが。

■課題

ユーザーを一意に同定するためにシステムが必要
OpenIDがその有力な候補だと思われる。

OpenSocial

■OpenSocial とは？

2007年10月Googleが提唱したSNSのAPIの標準仕様
これによりSNSにソフトウェアを提供しようとする開発者は、一つのアプリケーションの開発で複数のSNSにサービスを提供できる。

■AIPを通じて利用できるデータ

- ・プロフィール情報(ユーザー・データ)
- ・友達情報(ソーシャル・グラフ)
- ・活動情報(ニュースフィード、その他、実際の活動)

■参加を表明しているSNS

日本: mixi

海外: Myspace、Orkut、Salesforce、LinkedIn、Ning、Plaxo、Friendster

OpenSocial

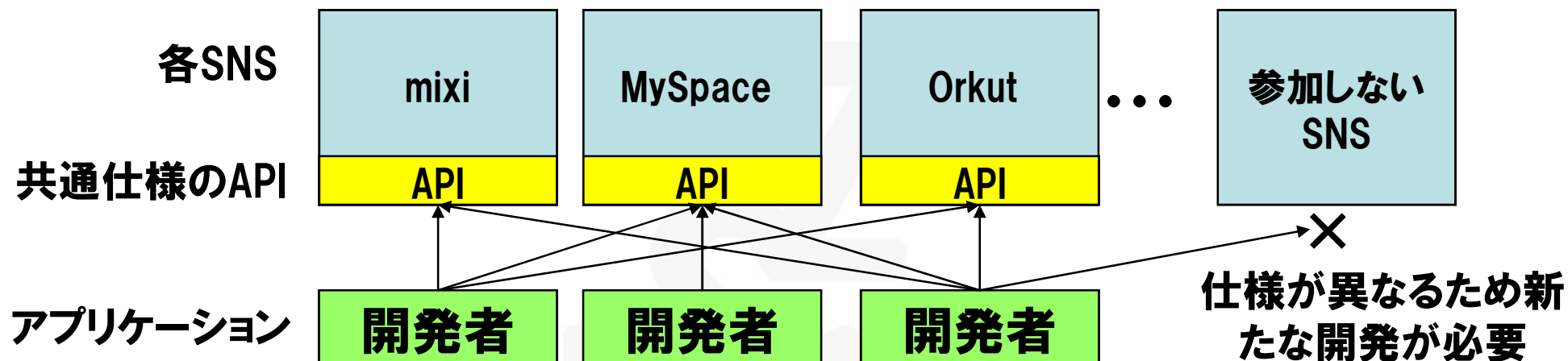
■ SNSがプラットフォームの時代へ

Facebookが取り組むプラットフォーム戦略は、Facebook上であらゆるサービス(アプリケーション)を提供する為に外部の開発者に仕様を公開し開発の協力を得るものです。これに対抗するのがGoogleのOpenSocialに参加を表明している陣営である。

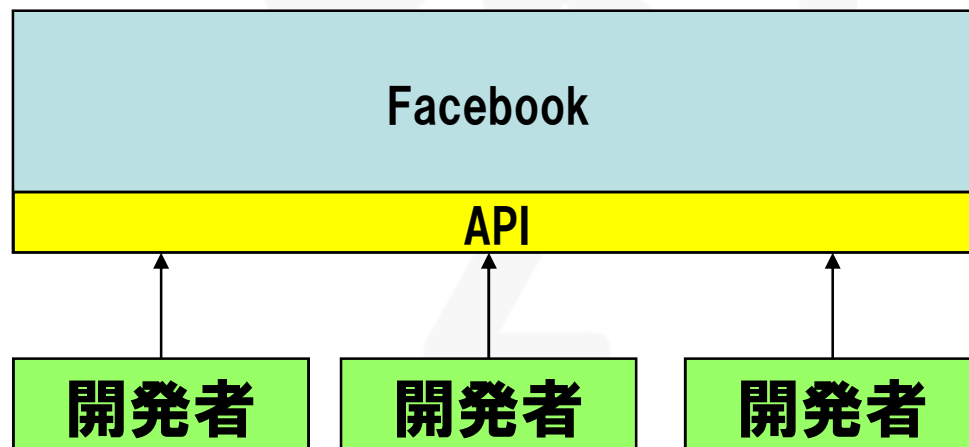
■ Facebook Economy

Facebookにアプリケーション (Widget) を提供することで、開発者に広告売上の一部がシェアされる仕組みとなっている。これによりWidgetの数は既に10,000を超えており、開発者は広告収入の一部を得ている。これらの現象をFacebook Economyと呼んでいる。

OpenSocialのイメージ



FacebookのWidgetのイメージ



OpenSocial

■何が起きるのか？

- OpenSocialに参加するSNSの機能追加が加速し増大する。
- SNSにアプリケーションを提供することをビジネスとするサードパーティーが増加する。
- 今までクライアントアプリケーションや他のWebサイトで利用していたサービスが、全てSNSのプラットフォーム上で完結する時代となる。
- 新たなプラットフォーム争いが始まる。

[プラットフォーム争いの歴史]

- 第一次 ハードウェア
- 第二次 OS
- 第三次 ブラウザ
- 第四次 サービス(SNS)

日本でも近々にSNSのプラットフォーム争いが始まる可能性が高い。

その他の動き

- 5月12日 Google, Webサイトにソーシャル機能を追加できる「Friend Connect」を発表
- 6月2日facebookのソースコードをオープンソース化した開発プラットフォーム「Facebook Platform」を発表。
- 6月26日「MySpace.com」他のWebサイトとプロフィールに関連する情報を共有する為のAPI「Data Availability」を発表
(Open social対応APIもリリースしている。)

まとめ

■ユーザー

- 一つのIDで様々なサイトが利用できるようになる。
- より良いサービスを併用しやすい。あるいは容易に乗り乗り換えやすい。
- SNSのプラットフォームであらゆることが完結する。

■事業者

- 新機能の追加が加速する。
- ユーザーの囲い込みが効かなくなる。(流動性が高くなる)
- 外部の開発者が手軽にアプリケーションを追加することができる。(それをビジネスとする者が現れる。)

新たなトラフィックの流れ

■第1段階

ポータルサイトのようなTOPページから辿り、目的のページへ到達。

■第2段階

検索からポータルの下層ページやロングテール(ブログ、SNSなど)なページへ直接到達。

■第3段階へ?(共有化、共通化の流れ)

サイト間の垣根が下がり、ユーザーがデータを取りに行くのではなく、データがユーザーに付いて来る傾向が強くなる。

共有化、共通化の波

4つのキーワードが融合することで、サービス(サイト)間で共通化、共有化の波くると予想。

■共通化

- Identity (ID) の共通化(ユーザーを一意に同定)
- インターフェイスの共通化(データー出入力の方法が共通化)
- データー解析方法の共通化(グラフ化)

■共有化

- ユーザーのデーターを共有(利用法方も含めた。)
- アプリケーションやソースコードを共有
- グラフの共有(解析データーの共有)

共有化、共通化の波

■ユーザー

- ユーザーがデータを能動的に取りに行く必要性が下がる。
(受動的でよい)
- 複数のサービスの良いところだけを集めて利用する。
(いいとこ取り)
- 自分を中心としたインターネットの世界を作ることが出来る。
(自分にとって最適なインターネットの世界)

共有化、共通化の波

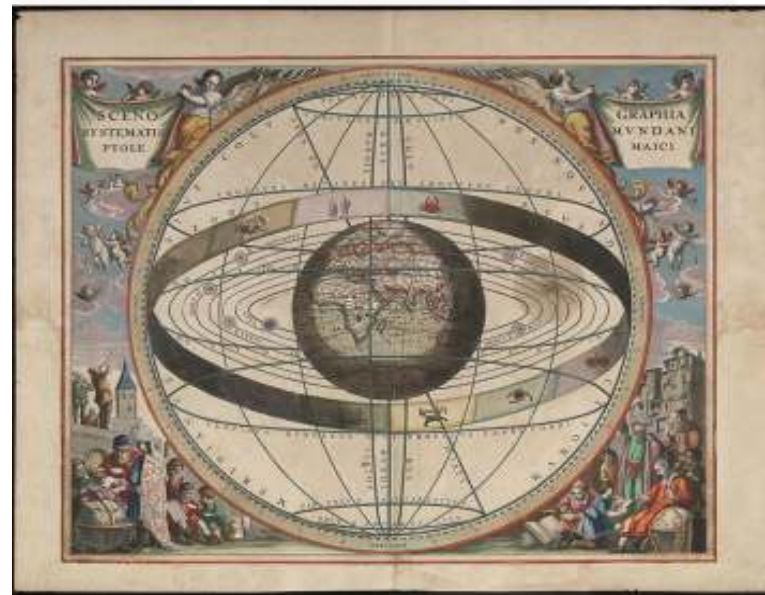
■事業者

- ・オープン化が進むことで、単独サービスでの付加価値を超えた、サービス間の協力による付加価値を提供することが必要とされる。
- ・外部の開発者と積極的に協力関係を持ち新たな付加価値を提供することが必要とされる。又これによる新たなビジネスチャンスも生まれる。
- ・オープン化やプラットフォーム化が進むことで、データはユーザーへ帰属する傾向が強まり、ユーザーを中心としたサービスの設計が必要となる。

インターネットは地動説から天動説へ

ユーザーを 「一意に特定するアイデンティティ」
「SNSをベースとしたプラットフォーム」
「ユーザーに帰属するデータの持ち運び」

これらが進むことで、従来のユーザーが動くことで情報にアクセスする(地動説)から、インターネットの世界がユーザーを中心として変化する天動説の世界となる。



インターネット
天動説